

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く (73) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(73)—

#### 1. 始めに

前報(72)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、ヴァイオリンと弦楽の協奏曲です。

#### CHANDOS ABRD 1096

モーツアルト

ヴァイオリン、ヴィオラ、オーケストラの協奏交響曲 E-flat Major

二つのヴァイオリン、オーボエ、チェロのための協奏曲

Norbert Brainin (ヴァイオリン)

Peter Schidrof (ヴァイオリン・ヴィオラ)

Neil Black (オーボエ)

Olga Hegedus チェロ (チェロ)

Alexander Gibson 指揮イギリス室内オーケストラ

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

CHANDOS 盤ということで、DECCA、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

CHANDOS 盤は初めての盤で、イギリス室内オーケストラはお馴染みですが、ソリスト達は初めて聴く演奏家達です。

ヴァイオリンとヴィオラの協奏交響曲は、お馴染みの曲のデジタル録音というこ

とで、ソロのヴァイオリンとヴィオラはクリアーで切れ味の良い音で、前面に浮き出てくる演奏です。

二つのヴァイオリン、オーボエ、チェロのための協奏曲は初めて聴く曲ですが、左右に広がった音場の中でソロがくっきりと前面に浮き出ており、バックのイギリス室内オーケストラも生き生きとした演奏で弦とオーボエのソロを盛り立てています。

### 3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、弦とオーボエのソロとイギリス室内オーケストラの演奏の様子が十分に把握できました。

以上